

<b>1 学校教育目標</b> 望ましい人間関係を育み、自ら考え行動する生徒の育成を図る。 校訓「学ぶ心 鍛える心 磨く心」	
<b>2 学校経営ビジョン</b> ① 生徒と教職員の信頼関係を基盤とし、共に向上していく学校づくりを目指す。 ② 教職員間の信頼関係を基盤として、組織として動く学校づくりを目指す。 ③ 保護者や地域社会に信頼され、愛される学校づくりを目指す。	
<b>3 本年度の重点目標</b> ① 学力向上と進路保障・・・「確かな学力の定着」と「表現力の育成」 ア：きめ細やかな学習指導の実践 イ：校内研究の充実（表現力を育成するための取組についての研究と実践） ウ：家庭学習の習慣化 ② 豊かな心の育成と人権・同和教育の推進 ア：認め合い、支え合い、協力し合う集団づくり イ：「いじめ」や「差別」をしない、させない生徒の育成 ウ：「不登校生徒」や「保健室（相談室）登校生徒」を新たに出不さない取組 ③ 学校の活性化と外部へのアピール・・・魅力ある学校づくり ア：青嶺中学校スローガン「さわやか せい れい」の継続・推進 イ：学校行事の工夫・改善と生徒会活動の充実・活性化	<b>4 前年度の成果と課題</b> ○ 評価が低かった項目は、学校・職員に対するものでは、生徒からは「授業はおもしろい」61.2%、「先生方は相談しやすい」61.5%、保護者からは「気軽に相談できる雰囲気がある」64.6%であった。生徒本人に関するものでは、「家で勉強をしている」44.4%、「家で読書をしている」50.4%、「家でテレビやゲームの時間を減らしている」64.4%、「いろいろな場面ではっきりと自分の意見や考えをいえる」65.2%となっている。保護者は、「子どもは読書をしている」47.9%、「家で手伝いをしている」53.1%、「テレビやゲームの時間を減らしている」56.3%、「子どもは、授業の内容を理解している」61.1%、「元氣よくあいさつをしている」65.6%、「子どもは、自分の意見や考えをはっきりと言える」73.7%となっている。 来年度は、学力向上（授業改善し、学力をつけさせる。生徒・保護者から相談しやすい環境を整える。家庭学習の充実。）、表現力の育成（自分の意見や考えをはっきり言えるようにする。）に重点をおく必要がある。

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質の向上	教職員の資質の向上、服務規律の保持	□教職員の服務規律の保持を図り、不祥事を起こさない。	◇職員会議や職員集会を実施することに管理職が注意を喚起したり、指導・助言を行ったりする。
	○開かれた学校づくり	学校からの情報提供と学校開放	□「学校のことがよくわかる。」と思う保護者の割合を85%以上にする。	◇毎月HPの更新と充実を図るとともに、毎月学校だより、育友会・保健・教育相談・図書館だよりを発行する。 ◇毎学期、フリー参観デーを設け、保護者、地域住民等の参加を促す。
教育活動	●学力向上	基礎・基本の定着	□3年生は、全員が希望する進路先へ進めるようにする。 □1、2年生は市共通テストで、どの教科（国・社・教・理・英）とも市平均を上回るようにする。	◇各教科、わかる喜び・達成感を実感できる指導内容・方法の工夫・改善を行い、授業の質の向上を図る。 ◇授業時数の確保とともに、年1回以上、全職員が研究授業を行う。
		表現力の育成	□いろいろな場面ではっきりと自分の意見や考えなどを発表できる生徒を80%以上にする。	◇スピーチや集会など、自己表現できる場の設定の工夫や内容や方法の改善を行う。 ◇各授業の中に表現活動の場を設定できるように指導の在り方を工夫・改善する。
	●心の教育	自分や他人を大切にできる豊かな心や仲間・人間関係づくりを推進する。	□全職員がすべての教育活動で思いやりのある人間関係づくりに努める	◇平和集会・人権集会の充実 ◇年間計画にそった人権・同和教育の実践 ◇月一回の人権講話の実施 ◇学校に行こうデーにおける道徳授業公開 ◇さわやか講演会の実施
	●健康・体づくり	☆食育等を通じた健康づくり	□朝食を95%の生徒が摂ってくるようにする。 □給食の残量を昨年度よりも減らす。	◇家庭生活調査を行い、家庭への啓発や連携をして改善する。 ◇給食指導の充実と食に関する授業の実践。
	○生徒指導	生徒指導の充実	□元氣でさわやかな生徒の育成を行う。 □自分で判断し、正しい行動を実践する生徒を育てる。	◇青嶺中スローガン「さわやか せい れい」の推進。 ◇学校生活を生徒が規則正しく、自主的活動できるように指導する。
		☆情報モラルの徹底	□携帯電話やパソコンの正しい使用ができ、犯罪の加害者や被害者にならない生徒を育てる。	◇サイバーセキュリティに関する講話の実施や道徳の授業での判断力の育成を行う。 ◇保護者や地域との連携を図る。
	○教育相談	☆不登校の未然防止	□不登校及び不登校傾向の生徒や保健室等登校の生徒の数が、昨年度より下回るようにする。	◇スクール・カウンセラーやソーシャル・スクール・ワーカーと連携し、生徒や保護者の悩みに的確に答える体制を作る。 ◇教育相談の充実を図る。
○中1数の学習環境改善充実	中1数学の学力向上	□学習状況調査において、数学の各分野で県平均を上回る。	◇個に応じた指導法の工夫と実践を行う。 ◇単元の節毎に、定着度を検証し、個に応じた補充を行う。	
○特別支援教育	特別支援教育の充実	□特別支援教育の体制について全職員が理解する。 □支援を必要とする生徒の支援計画を作成し、専門機関とも連携を取りながら、生徒個々の支援に当たる。	◇毎月、特別支援教育委員会を実施するとともに、特別支援教育会議をもつ。 ◇学習支援センターを設け、支援の必要な生徒に対応していく。	
その他	☆家庭教育力の向上	家庭学習の環境づくり	□テレビやゲームの時間を減らし、勉強や読書の時間を増やす。 □「家で読書をしている。」と答える生徒・保護者を55%以上にする。	◇昨年度、育友会活動で取り組んだ内容を引き続き実施する。（定期テスト等の前1週間に家族でテレビを見る時間を減らそうとする取組）

●は共通評価項目、○は独自評価項目、☆は伊万里市評価項目